

基本目標1 みんなが「気づく」きっかけ、場があるまち

基本施策(1) お互いに見守り、声をかけあえる地域づくり

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|-------------------|--|-------|---|-------------------------------------|--|--|
| 地域見守り安心ほっとライン | 市民や市民の家を仕事で回っている事業者が、ポストに新聞がたまったままになっているなどといった異変を見つけた場合に、専用ダイヤルまで情報を提供してもらう取組を実施します。 | 安心安全課 | 数値や実施の有無等の実績 令和5年2月末時点で81箇所の事業所と協定を締結している | | 協力地域見守り協定活動事業者数は、少しずつであるが増加している。しかしながら、通報件数は、年数回にとどまっている。 | 協力地域見守り協定活動事業者との連絡や周知方法を工夫したい。 |
| 認知症高齢者等家族支援事業 | 認知症の高齢者などを介護する家族に「発信機」を貸し出し、行方不明時の迅速な位置検索、保護を目指します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 セコム社製端末(ココセコム)の導入費用補助を実施。3人(R5.2月末時点)が利用している。 | | 認知症の高齢者が、外出時に持参するバッグ等があれば端末を入れておくことはできるが、外出時に手ぶらで外出する場合、行方不明事例が実際に発生しても、発信機として活用することができないことが想定される。 | 本人がスマホを所持していることも多くなっているため、新たな端末の貸出だけでなく、既存のスマホにGPSを導入するなど、本人や家族の利用しやすい方法を選べるようにしていきたい。 |
| 行方不明高齢者保護ネットワーク事業 | 行方不明になった高齢者を地域の支援を得て早期に発見できるよう、一斉のメール送信システムを活用した協力機関の支援体制を構築します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 68人登録あり。(R5.2月末時点)メール配信件数は、R3年度6件、R2年度5件、R1年度3件。 | 行方不明者の近所の人や、地域の喫茶店の従業員等に発見に協力いただいた。 | 行方不明事例が発生してから、事業への登録となることが多く、事前の登録が進んでいない。 | 市民への直接的な周知に加え、包括職員及びケアマネ等の専門職にも事業を一層周知し、行方不明となる可能性のある方の事前登録が進むようにしていきたい。 |
| 認知症サポーター養成講座 | 地域において認知症に関する正しい理解を深め、地域全体で認知症を支えていくための講座を実施します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 新規養成者数は、R3年度186人、R2年度280人、R1年度1,266人。学校や市民向けに年間10回程度実施している。 | | コロナ禍で集合形式の実施が難しく、養成者数が伸び悩んだ。市民向けの講座について、適宜周知はしているが、周知方法が難しい。 | 従来の周知に加え、民間企業等へも周知を進め、内容についても依頼先の希望に応じて変更しながら、より多くの人に認知症についての正しい理解が進むよう努める。コロナ対策もしながら、少しずつ集合形式での開催も再開していく。 |

| | | | | | | |
|---|---|----------------|---------------------|---|--|--|
| <p>地域共生社会推進事業(地域づくり) 旧事業名:地域力強化推進事業</p> | <p>地域の調整役となるCSW(コミュニティソーシャルワーカー)が中心となり、市民同士が日頃から見守り、支え合える関係性を築く取組を行います。</p> | <p>地域共生推進課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>見守りネットワークの構築 0地区</p> | <p>要支援者等に対し、災害時のみならず、平常時においても、地域の中で見守り、支え合えるよう、日頃から関係団体や関係機関につながるネットワークをつくり、身近な住民同士が支え合える仕組みづくりが課題である。</p> | <p>地域における支え合いの体制構築するため、小地域において、住民と専門職等が話し合うことができる場を設け、住民が主体的に地域課題を把握してその解決を試み、住民の自主的な活動の発展するよう支援をしていきたい。</p> |
| <p>生活支援体制整備事業</p> | <p>地域の支え合いを推進する生活支援コーディネーターを配置し、地域資源の把握やサービス提供主体をはじめとする関係者間のネットワーク構築などに取り組むとともに、地域の高齢者などのちょっとした困りごとへのお手伝いをする生活支援サポーターを養成します。また、サロン等の集いの場の情報をまとめた「行こ居こガイドマップ」を作成します。</p> | <p>長寿課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>生活支援サポーター養成人数は、R3年度103人、R2年度210人、R1年度85人。</p> | <p>地域特性に沿った通いの場の実施。</p> | |
| <p>支え合いマップづくり</p> | <p>地域の見守り体制の充実を図るため、地域にどのような困っている人がいて、どのような人と人とのつながりがあり、支え合いが行われているかを再確認し、地域の課題の解決に向けた話し合いの場づくりを支援します。</p> | <p>地域共生推進課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>マップづくり実施地区数 10地区(累計)</p> | <p>市民主体の活動へ移行できるように働きかけを実施しているが、地域によって実情が異なり、その時期の見極めが課題。</p> | <p>地域の活動に関心をもってもらうよう、様々なきっかけづくりの場を提供することで、住民が主体的に地域課題を把握してその解決を試み、住民の自主的な活動の発展するよう支援をしていきたい。</p> |
| <p>乳幼児健康診査、ババママ教室、育児教室</p> | <p>妊娠期から出産後の乳幼児期、その後の子育ても含め継続的に適切な情報提供を行うとともに、保護者の育児上の不安や悩みを話し合える場を提供し、楽しく子育てができる環境をつくります。</p> | <p>健康推進課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>ババママ教室年32回、育児教室年36回、3～4か月児健診年18回、10～11か月児相談年16回、1歳6か月児健診年18回、3歳児健診年18回</p> | <p>withコロナの中での、参加者同士の交流をどうしていくかが課題。健康推進課の社会資源だけでは、育児教室参加者の自主グループ活動のサポート、第2子以降保護者向けの情報提供の場の提供は、困難である。</p> | <p>引き続き、各種健康診査や教室を実施し、子育てに関する情報提供や参加者同士の交流を図る。</p> |
| <p>スクールソーシャルワーカーの必要に応じた拡充</p> | <p>社会福祉等の専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーが、様々な課題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒が置かれた環境へ働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど、多様な支援方法を用いて、課題解決を図ります。</p> | <p>教育総務課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>3人配置 適宜学校や関係機関と情報共有し、当該児童生徒や保護者にアプローチしている。</p> | <p>・安定した人材の確保 ・複雑多様化した家庭の問題への対応が難しくなっている。</p> | <p>各中学校区に配置できるよう引き続き3人確保する。</p> |

基本目標1 みんなが「気づく」きっかけ、場があるまち

基本施策(2) 困りごと、悩みごとに気づける体制づくり

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|------------------|---|---------|---|--|---|--|
| 地域訪問事業 | 戸別訪問による市民との直接対話により、市民ニーズ及び地域課題の把握に努めます。 | 地域共生推進課 | 数値や実施の有無等の実績 令和元年度で終了 | | | |
| 障がいのある人への個別訪問調査 | 障害者手帳を所持しているが、福祉サービス等の利用がない人について、個別訪問調査を実施します。 | 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 H31年度109件、R2年度100件、R3年度75件訪問等実施。 R4年度55件訪問等実施見込み。 | | 地域に限られた人数しかいない相談支援専門員によるアウトリーチを、福祉サービスを利用していない全ての障がい者等に実施することは限界を迎えている。 | 増加し続ける障がい者等を全て事業の対象者とするのが難しくなったため、令和4年度から対象者の見直しを行った。また令和5年度から実施方法を見直し、過去に訪問等行ったことがある対象者については、訪問ではなく電話等を活用し状況確認等することにより、相談支援専門員の負担軽減を図る。 |
| 高齢者実態把握調査 | 民生委員・児童委員による訪問調査により、65歳以上のひとり暮らし高齢者及び後期高齢者世帯等、見守りが必要な高齢者世帯を把握するとともに、関係各課や地域包括支援センターと情報共有を図り、支援を実施します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 災害対策基本法の改正により個別避難計画の作成が努力義務化されたことにより、令和4年度は、高齢者実態把握調査から「みまもり台帳」に名称を変更し実施。 R5.2発送 高齢者分3,910件 | | 調査様式を変更したことにより、対象者に調査意図が十分に伝わり切らなかった。 | 対象者にとってわかりやすい様式に改め、登録が必要な人からの回答を得られるように工夫する必要がある。 |
| 保育コンシェルジュ事業の機能強化 | 子どもを持つ保護者への保育所等に関する情報の提供を実施します。また、子どもを持つ保護者の相談に応じるため、アウトリーチでの相談事業も実施します。 | 子ども未来課 | 数値や実施の有無等の実績 市役所での相談業務に加え、保育園の園開放や、園見学にコンシェルジュが出向き、入園案内を兼ねて相談のっている。(R4年29件) | | 待機児童の問題が解消できていないこと。 | ホームページの他、様々な情報発信をしていく。 |
| 保育所などへの巡回相談 | 障がいのある児童を対象とした相談支援事業の相談支援員が、市内の保育所等への巡回相談を実施します。特に就学前の児童や保護者に対する支援を行います。 | 子ども家庭課 | 数値や実施の有無等の実績 令和3年4月からこどもの発達相談室を設置し、相談室の相談員(心理担当職員、保育士等)が、令和4年度は令和4年度1月末現在で19回(12園)訪問している。 また、長久手市児童発達支援センターが保育所等訪問支援事業を実施しており、令和4年度1月末現在で320人(32人/月)訪問している。 [令和3年度実績は76人/月]。 | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど 保育所等訪問は児童発達支援センターの専門職が訪問しており、保育所等との連携が広がっている。 | 現在は、依頼、要望のあった園を訪問している。 令和5年度からは、児童発達支援センターの保育所等訪問事業の訪問先として小学校が始まる。 | 今後は、定期的な巡回が出来るよう進めていきたい。 |

| | | | | | | |
|----------------|--|-------|--|---|--|-----------------------------------|
| 産前産後子育て相談員訪問事業 | 産前・産後における育児相談の機会を増やすため、地域にある公共施設への保健師等の派遣回数を拡充します。 | 健康推進課 | <p>数値や実施の有無等の実績</p> <p>実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど</p> | <p>まちの保健師として、市内公共施設や地域のサロンへ出向いて育児相談を実施している。</p> <p>地域の身近な場で相談ができる機会を確保でき、相談しやすくなった。</p> | 多機関が関わる相談ケースの場合、情報共有をし、必要な支援につなげていくことが課題。 | 引き続きまちの保健師活動を実施します。 |
| 母子保健コーディネーター事業 | 妊娠期から子育て期までの支援を今まで以上に切れ目ないものにするために、妊娠中、育児中の母親やその家族の様々な相談に応じます。 | 健康推進課 | <p>数値や実施の有無等の実績</p> <p>実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど</p> | <p>母子保健コーディネーターを3人配置。</p> <p>母子保健コーディネーター、地区担当保健師が連携して対応ができ、相談支援を拡充できた。</p> | 保健師資格を持つ母子保健コーディネーターの確保が課題である。3人配置としているが、現状では2人配置となっている。 | 引き続き母子保健コーディネーターを配置し、相談支援を拡充していく。 |
| 地域保健活動事業 | 誰もが、心や身体の様々な心配事を保健師に気軽に相談することができるよう地域共生ステーションや児童館、老人憩の家、地域集会所において保健師の派遣活動を実施します。また、赤ちゃんから高齢者まで必要のある家庭には家庭訪問を実施します。 | 健康推進課 | <p>数値や実施の有無等の実績</p> <p>実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど</p> | <p>公共施設や地域サロンでまちの保健師活動を実施している。</p> <p>共生ステーション新規開設に伴い、活動の場を広げた。</p> | 相談内容に応じて必要な支援につなげることが課題である。 | 引き続きまちの保健師活動を実施し、必要な支援につなげていく。 |

基本目標2 みんなが「つながる」楽しさを知るまち

基本施策(3) 地域でつながる楽しいまち

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|---------------------|--|-------------|---|--|---|--|
| 地域共生ステーション整備事業 | 各小学校区に自治会のほか、地域に根ざした子供会やシニアクラブ、企業、NPO、各種活動団体等が、地域のために様々な取組を行う拠点となる施設を整備します。 | たつせがある課 | 数値や実施の有無等の実績 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | 北・南共生ステーションが新たに開設された。 西・市が洞小が校区では、まちづくり協議会が共生ステーションを拠点として、様々な団体と連携した事業を実施している。 | 共生ステーションの認知度の向上、来館者の増加。 | 地域住民へ共生ステーションのPRを強化していく。 |
| 生涯学習推進事業 | 公民館の利用促進を図り、生涯学習に関わる団体や個人が、自主的に活動し、交流機会の充実を図ることができるよう支援します。また、学んだことを地域活動や市民活動に生かすことができるよう支援します。 | 生涯学習課 | 数値や実施の有無等の実績 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | R元年度 32講座 R2年度 20講座 R3年度 12講座 R4年度 16講座 ながくて・学び・アイ講座から立ち上がった育成サークルが積極的に活動している。令和3年度については、10講座中7講座からサークルが成立し、令和4年度に入ってから、「オンラインでのサークル活動を継続している」「新メンバーが加入した」といった報告を頂いている。 | ながくて・学び・アイ講座については、開講率を引き上げるため、さらなる周知が必要であると考ええる。アンケートから、HPを見つけづらい等の意見も上がった。 | R3年度・R4年度ともに、1年の大半の期間について公民館を使用することができず、行政改革でも他課等と重複する講座の統廃合を求められているため、講座の実施枠は限られたものとなった。今後、その枠の中で、講座の内容を精査し、ニーズがあり長久手市らしい特徴のある講座を実施していく。 |
| 市民企画支援事業 | 市民が主体となって行う学習の場を提供し、学んだことを教え合うことにより、出会いの機会が生まれ、人と人がつながるきっかけづくりを行います。また、市民が、学んだことを活かして、地域で活躍できるよう支援します。 | 生涯学習課(文化の家) | 数値や実施の有無等の実績 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | ・シネマ倶楽部 ・フレンズ ・ながくてアートフェスティバル コロナ禍により以前のような活動ができず交流の場が失われた。R3の下半期から活動が徐々に戻り、R4下半期には、いずれの活動もコロナ禍以前に戻りつつある。 | いずれの取組も自立性が高く、実績を積み上げてきている。課題としては新規メンバーが加入しやすい環境や柔軟性をどのように確保して、継続性を担保していくかである。 | メンバーとの話し合いを継続的に行う。彼らの自立性を尊重しつつも、長期的な視点で課題を洗い出し、問題意識として共有することで、市民主体の交流の場が継続できるような議論を行う。数値的な成果よりも、新しい人材や若い世代を取り込んでいくための方法の模索を協働で時間をかけて行うことが重要と考えている。 |
| ながくて地域スマイルポイントの利用促進 | 市民活動に参加した市民にポイントを付与し、貯まったポイントを様々な特典に交換できるようにして、地域社会への更なる参加を促します。 | 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | 事業登録者数はR元年度812人、R2年度640人、R3年度653人、R4年度770人見込み。ポイント交換者数はR元年度580人、R2年度454人、R3年度435人、R4年度500人見込み。R4年度から本事業の対象者を18歳以上から小学生以上の者に拡大した。 制度が定着してきており、市民団体活動者数は年々増加傾向となっている。制度開始時から増加を続けていた交換者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少傾向となっていたが、令和4年度はやや回復した。 | 本事業は、市民の地域社会への参加を促すためのきっかけづくりとしている。いずれは、ポイントがなくても市民が自主的に活動し、本事業は収束することが理想である。しかし、ポイントをもらうことを前提として事業構成を検討する市民団体があることが現状であり、対応が課題となっている。また、市民活動をする人が高齢化しているため、若い世代から参加しやすくする工夫が必要である。 | 本事業を通じて市民活動を更に活性化させ、市民による自主的な活動への発展を促すことが目標である。2025年までに、地域住民の自主的な活動による見守りの体制等が構築されるよう協力していきたい。 |

| | | | | | | |
|--------------------------|--|------------------------|---------------------|---|---|--|
| <p>老人憩の家等既存施設の有効活用事業</p> | <p>高齢者をはじめ多様な世代の人たちが、歩いて行ける身近な場所に、地域の人たちと交流できる老人憩の家等既存施設の有効活用の検討に取り組みます。</p> | <p>長寿課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>R3利用許可による利用回数 39回</p> | <p>コロナ禍による老人憩の家の利用制限もあり、多世代が集まる事業を実施できていない。また、施設管理者であるシニアクラブの活動拠点であり、多世代交流の場としての使用を望まないとの見解もある。</p> | <p>施設管理者と意見交換を行うとともに、地域での利用に対するニーズ把握を行う必要がある。</p> |
| <p>地域いきいきライフ推進事業</p> | <p>市民や事業者など、地域の様々な主体の意欲や創意工夫を活かした健康づくりや支え合いに資するコミュニティの創出を支援します。</p> | <p>長寿課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>①教室実施回数 ②参加者延べ人数 R1:①692回②8,045人、R2:①777回②7,183人、R3:①578回②5,908人</p> | <p>これまで実施してきた教室は、比較的健康な方が継続して教室に参加し、健康を維持する教室が中心であり、身体機能の改善に取り組めていない。</p> | <p>心身機能が低下したいわゆるフレイル状態の方を対象とした、心身機能の改善を目指す教室を実施していく。</p> |
| <p>健康づくり教室の開催</p> | <p>生活習慣の改善や介護予防を目的とした健康づくり教室(栄養指導、運動指導等)を開催し、参加者の仲間づくり、健康づくりを推進します。</p> | <p>健康推進課 保険医療課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>感染症の状況により、中止としたり、規模を縮小して実施した。 (保険医療課で実施していた健康教室は、長寿課の事業に統合)</p> | <p>他課と連携して、効果的な教室の実施を検討する。</p> | <p>健康づくり計画の6つの領域に基づき、教室等を実施する。他課と重複して実施している教室は統廃合、集約化する。 年齢によらず、関係課で連携して健康づくり事業を実施する必要がある。</p> |
| | | <p>長寿課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>健康づくり活動の場への延べ参加者数 R1:8,153人、R2:8,091人、R3:7,285人</p> | <p>アンケートで受講したい講座等をさいて、講座を企画し、実施した。</p> | <p>特定検診などのデータに基づいた教室となっていない。</p> |
| <p>保育園・児童館等での地域交流事業</p> | <p>若者から高齢者まで幅広い世代の市民が保育園や児童館、児童クラブ等の環境整備や行事の補助などに知識や能力を活かしてボランティアとして関わり、子どもたちと交流することにより、地域に根ざした保育園、児童館等を目指します。</p> | <p>子ども未来課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>令和3年度は保育園おたすけたいとして88名の登録があり、散歩の引率や、クリスマス会やもちつきなどの行事のお手伝い等、のべ544件の活動をした。また、児童館おたすけたいは、61名の登録があり、館が行う行事のお手伝いを主にしていたです。</p> | <p>コロナにより、令和2年から令和4年の間は十分な活動ができなかった。</p> | <p>幅広い世代のボランティアを募り、様々な活動をしてもらう。</p> |

| | | | | | | |
|--------------------|---|---------------|--|--|---|---|
| <p>子育て支援センター事業</p> | <p>親子の交流の場の提供、子育てなどに関する相談・援助の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育てに関する講習会などを実施します。</p> | <p>子ども家庭課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> <p>実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど</p> | <p>子育て支援センターの入館者数は、コロナ感染対策により入館制限や行事の縮小や中止などにより入館者数は減少している。令和2年10月に保護者のレスパイトを目的としたこどもの預かり事業「ことりルームびっび」を開始した。</p> <p>育児講座ではオンライン方式など新たな方法でも実施した。ことりルームびっびでの子どもの預かりは着実にニーズがあり実績も伸びた。</p> | <p>子育て支援センターの入館者数の回復、ことりルームびっびでの予約方法の検討</p> | <p>市内の子育ての実情やニーズに応じた講座や交流の場づくり等の事業展開、関係部署との連携</p> |
|--------------------|---|---------------|--|--|---|---|

基本目標2 みんなが「つながる」楽しさを知るまち

基本施策(4) いつでも相談できるまちづくり

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|---|--|---------------|----------------------|---|--|---|
| 地域共生社会推進事業(相談支援) 旧事業名:多機関協働相談支援包括化推進事業 | 市民に身近な圏域で分野を超えた課題に総合的に相談に応じる包括的な支援システムを構築し、個人や世帯の複合的な課題や制度の対象とならない課題も含めて適切な関係機関につなぎ、連携しながら生活再建を図ります。 | 地域共生推進課 | 数値や実施の有無等の実績 | 複雑化・複合化した相談に対し、包括化推進員が調整役となり、重層的な支援会議3回、支援会議5回実施した。 | 複雑な相談が増えてきている現状において、分野毎の相談では限界があることから、市内全体で連携して支援を行う「チーム支援」の必要性について周知・理解を広く図っていく必要がある。 | 関係者間や地域との連携の必要性についての意識の醸成や共通認識を図るため、庁内連携会議や重層的な支援会議等の内容を工夫して活用していきたい。 |
| 【再掲】地域共生社会推進事業(地域づくり) 旧事業名:地域力強化推進事業 | 地域の調整役となるCSW(コミュニティソーシャルワーカー)が中心となり、市民同士が日頃から見守り、支え合える関係性を築く取組を行います。 | 地域共生推進課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| 基幹相談支援センター事業 | 障がいのある人、発達が気になる子どもを持つ人、難病の人の相談に応じます。 | 福祉課 子ども家庭課 | 数値や実施の有無等の実績 | H31年度3,999件、R2年度4,086件、R3年度5,275件、R4年度(R5.1月末まで)4,102件の相談に応じた。 | 障がい者等については増加し続ける一方、地域の相談支援専門員がなかなか増えない。 | 地域の相談支援専門員が増えるよう障がい者自立支援協議会で方策を検討していく。 |
| 生活困窮者への支援 | 生活困窮の程度に応じ、必要な支援を行い、その自立を支援します。 | 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 | H31年度91件、R2年度236件、R3年度283件、R4年度(R5.1月末まで)135件の相談に応じた。 | 新型コロナウイルス感染症まん延に伴い相談件数は増加したが貸付を受けて以降連絡が取れなくなるといった生活困窮事業のフォローが困難であるケースが多々発生した。 | 課題に対する解決策を今後の支援調整会議等で検討していく。 |
| 成年後見センター事業 | 尾張東部権利擁護支援センターへの委託により、判断力が不十分な認知症の高齢者、知的障がいや精神障がいのある人の財産や権利を守るための支援を実施します。 | 長寿課 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 | ・月1回出張相談を実施 ・尾張東部の5市1町の行政、福祉、司法、医療、保健関係者等によって構成されている適正運営委員会を6回実施 ・法人後見 1名 | | 制度利用が必要となり得る高齢者、障がい者等に身近な福祉専門職の成年後見制度に対する理解向上及び連携促進に注力していく。 |

| | | | | | | |
|-----------------------------|--|---------------|---------------------|--|---|---|
| <p>【再掲】保育コンシェルジュ事業の機能強化</p> | <p>子どもを持つ保護者への保育所等に関する情報の提供を実施します。また、子どもを持つ保護者の相談に応じるため、アウトリーチでの相談事業も実施します。</p> | <p>子ども未来課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど</p> | | |
| <p>児童発達支援センター整備事業</p> | <p>市の中核的な療育施設として、児童発達支援センターを上郷保育園や上郷児童館と一体的に整備し、障がいのある児童が身近な地域で安心して療育を受けることができる体制を構築します。</p> | <p>子ども家庭課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>令和3年10月に開所。児童発達支援事業と保育所等訪問支援事業の2つの事業を実施。 【児童発達支援事業(1日定員30人)】21.3人/日(令和4年度1月末まで実績)、13.5人/日(令和3年度実績) 【保育所等訪問支援事業】32.0人/月(令和4年度1月末まで実績)、12.7人/日(令和3年度実績)</p> <p>実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど</p> <p>保育所等訪問支援事業を通じて特に保育所等に児童発達支援センターの周知が進んだ。</p> | <p>市の中核的な療育施設として、他の事業所との連携がまだまだ進められていない。 重症心身障がい児を支援するため、看護師の複数配置。 より専門的な療育のため、専門職(言語聴覚士、作業療法士、理学療法士など)の確保。</p> | <p>市の中核的な療育施設として、他の事業所との連携を進めていく。 人員体制を強化(看護師の複数配置や専門職(言語聴覚士、作業療法士、理学療法士など)の増員)し、地域に還元していく。</p> |
| <p>家庭児童相談の充実</p> | <p>子どもへの養育等、様々な困難に直面している家庭を総合的に支援します。要保護児童等への支援のほか、DV防止対策の充実を図ります。</p> | <p>子ども家庭課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>相談件数は年度によりバラツキはある。職員体制が整ったため令和4年6月に「子ども家庭総合支援拠点」設置とした。また同年度に要保護児童等に関する情報連携システムの構築を行った。</p> <p>実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど</p> <p>児童虐待やDV防止等の啓発を協定締結事業者や大学連携等の関係のなかで啓発を強化した。国の子ども家庭庁の創設。</p> | <p>相談件数は年度によりバラツキはある。職員体制が整ったため令和4年6月に「子ども家庭総合支援拠点」設置とした。また同年度に要保護児童等に関する情報連携システムの構築を行った。</p> <p>こども家庭センター設置への準備、家庭相談員のマンパワー及び質の確保、関係部署との連携推進</p> | <p>こども家庭センター設置への準備、継続した職員体制の整備、積極的な啓発活動</p> |
| <p>【再掲】産前産後子育て相談員訪問事業</p> | <p>産前・産後における育児相談の機会を増やすため、地域にある公共施設への保健師等の派遣回数を拡充します。</p> | <p>健康推進課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど</p> | | |
| <p>【再掲】母子保健コーディネーター事業</p> | <p>妊娠前から子育て期の支援を今まで以上に切れ目ないものにするために、妊娠中、育児中の母親やその家族の様々な相談に応じます。</p> | <p>健康推進課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど</p> | | |

| | | | | | | |
|----------------------------|--|-------|---|--|--|--|
| 【再掲】地域保健活動事業 | 誰もが健康相談等を受けることができ、心や身体の様々な心配事を保健師に気軽に相談することができるよう共生ステーションや児童館、老人憩の家、地域集会所において保健師の派遣活動を実施します。また、赤ちゃんから高齢者まで必要のある家庭には家庭訪問を実施します。 | 健康推進課 | 数値や実施の有無等の実績 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| 精神保健福祉事業 | こころの悩みを持つ人やその家族からの相談に応じ、必要に応じて医療機関の紹介や適切なサービスが受けられるよう支援し、こころの悩みを持つ人が地域の中で、その人らしく自立して生活できるように支援します。 | 健康推進課 | 数値や実施の有無等の実績 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | こころの相談件数 令和元年度160件、2年度119件 3年度134件、4年度78件(12月末) 感染症により、こころに不調を感じやすい環境となったため、相談事業について、HP等で周知をした。 | 感染症により、対面での相談が難しい状況となり、相談に訪れる件数が減少した。 | 電話、面接での相談の継続する。事業の周知のため、検診等でのチラシの配布、広報にチラシの折込みを実施する。 |
| 【再掲】スクールソーシャルワーカーの必要に応じた拡充 | 社会福祉等の専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーが、様々な課題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒が置かれた環境へ働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど、多様な支援方法を用いて、課題解決を図ります。 | 教育総務課 | 数値や実施の有無等の実績 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| 地域包括支援センターの活動推進 | 地域の高齢者の総合相談、権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防などの必要な援助を行い、高齢者の健やかな暮らしを包括的に支援します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | 総合相談件数実績 R3年度2,958件、R2年度2,329件、R1年度2,390件 | ・様々な問題が複合的に絡み合い、支援が困難な事例が増えている。 ・総合相談から得られた事例等を、傾向毎にまとめることができている。 | 総合相談から得られた事例をまとめ、これから必要な仕組みづくりをすすめる。 |

基本目標2 みんなが「つながる」楽しさを知るまち

基本施策(5) 顔の見えるネットワークづくり

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|----------------------|--|---|---------------------------|--|--|--|
| [再掲]多機関協働相談支援包括化推進事業 | 市民に身近な圏域で分野を超えた課題に総合的に相談に応じる包括的な支援システムを構築し、個人や世帯の複合的な課題や制度の対象とならない課題も含めて適切な関係機関につなぎ、連携しながら生活再建を図ります。 | 地域共生推進課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| 在宅医療・介護連携推進事業 | 医療・介護・福祉の専門職等が顔の見える関係を作りながら、お互いに学びや気づきを深め、ICTも活用しながら職種間の連携を推進します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | 多職種交流部会、入退院支援部会等の部会(部会は長久手市在宅医療・介護連携支援センターが実施)や地域ケア会議を開催し、顔の見える関係を構築。また、電子@連絡帳を導入したり、専門職の医療・介護の橋渡し役として平成30年4月から長久手市在宅医療・介護連携支援センターを設置している。 | ・電子@連絡帳を活用している医師が限られている。 ・会議等の参加者が固定されつつある。 | 電子@連絡帳の普及や様々なテーマで会議等を実施し、多職種連携を引き続き取り組む。 |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | 多職種交流部会でケアマネや包括が医師と交流をする機会を設けたことで医師との顔の見える関係が構築できつつある。 | | |
| 療育支援体制構築事業 | 保健・保育・福祉・教育等の機関が適切に連携することで、障がいのある児童に対して、出生から就労までの切れ目のない療育支援体制を構築します。 | 子ども未来課 子ども家庭課 福祉課 健康推進課 教育総務課 | 数値や実施の有無等の実績 | 『出生から20歳までの途切れない支援体制の構築』に向けて関係機関の具体的な連携方法を体制化し、長久手市療育支援個別ケース協議会として乳幼児連絡会、学童・青年期連絡会、また、医療的ケア児等ケース会議を設置した。 | 福祉サービス以外の居場所が不足している。 | ひきこもり、不登校等の福祉サービスが馴染まない児童や繋がりがきれてしまう児童等、手助けが必要と思われる若者の実態把握や一人一人の個性に寄り添った早期の支援体制について。 |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| ファミリー・サポート・センター事業 | 地域の中で、仕事と育児の両立等、安心して子育てできるよう、育児の援助をしたい人(援助会員)と援助を受けたい人(依頼会員)による相互援助活動を行います。 | 子ども家庭課 | 数値や実施の有無等の実績 | コロナの影響で活動件数は減ったが、会員数減少傾向。講習会はコロナ禍でも続行、研修会や交流会は流行状況により中止や延期、制限をかけて実施した。 | 援助会員の確保、ICT化の推進 | 市民同士の相互援助活動である本事業の安定した活動のため、今後もニーズに応じた活動への支援を継続していきたい。 |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | デジタル田園都市構想の中で登録や活動報告等のICT化を進めている | | |
| 地域学校協働活動事業 | 学校、保護者、地域がともに連携し、登下校時の見守りや、授業中における障がいのある子どもなどの支援を行い、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えています。 | 教育総務課 | 数値や実施の有無等の実績 | ・長久手小学校区に設置 ・地域のボランティアや大学生と協力し、登下校の見守り活動、校内の除草作業、図書読み聞かせ活動、夏休み・冬休み宿題教室などを実施 ・授業中における障がいのある子の支援は実施していない。 | ・大学生との連携は、学年が変わることもあり、安定的に継続させることが難しい。 | ・2校区目の地域学校協働本部を設立し、活動を定着させたい。 |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | ・学習支援で大学生との連携が図れるようになった。 | | |

| | | | | | | |
|----------------------|--|-------|--------------|---|--|---|
| 障がい者自立支援協議会 | 地域の障がい福祉に関するネットワークの構築等について、長久手市障がい者自立支援協議会で協議します。 | 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 | 本会議 年2回程度 事務局会議 年3回程度 計画策定部会(R元・R2) 6回 専門部会 4部会 プロジェクト 6つ | 協議会における地域課題の認知や検討が十分でない。 | 協議会の委員構成を再検討する。また、協議会において、個別事例を通じた地域課題の検討ができるよう、協議会の体系について検討を加える。 |
| 【再掲】生活支援体制整備事業 | 地域の支え合いを推進する生活支援コーディネーターを配置し、地域資源の把握やサービス提供主体をはじめとする関係者間のネットワーク構築などに取り組むとともに、地域の高齢者などのちょっとした困りごとへのお手伝いをする生活支援サポーターを養成します。また、サロン等の集いの場の情報をまとめた「行こ居こガイドマップ」を作成します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携事業 | 園児と児童及び児童と生徒の交流カリキュラムの充実や職員間の交流研修、保育園・幼稚園、小学校、中学校間の情報共有と積極的な就学相談に取り組みます。 | 教育総務課 | 数値や実施の有無等の実績 | ・小学校・保育園見学、情報交換会を開催 | ・発達障がいのある子が増加しており、対応に苦慮している。 ・保育園での対応と小中学校での対応の違いがあり、保護者から要望を言われることがある。 | 継続して情報交換会を実施 |

基本目標3 みんなに「届く」安心なまち

基本施策(6) 困っている人を包括的に支える体制づくり

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|----------------------|--|---------------|---------------------------|------------------------|---|---------------------------------------|
| 【再掲】多機関協働相談支援包括化推進事業 | 市民に身近な圏域で分野を超えた課題に総合的に相談に応じる包括的な支援システムを構築し、個人や世帯の複合的な課題や制度の対象とならない課題も含めて適切な関係機関につなぎ、連携しながら生活再建を図ります。 | 地域共生推進課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| 【再掲】基幹相談支援センター事業 | 障がいのある人、発達が気になる子どもを持つ人、難病の人の相談に応じます。 | 福祉課 子ども家庭課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| 【再掲】生活困窮者への支援 | 生活困窮の程度に応じ、必要な支援を行い、その自立を支援します。 | 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| 福祉有償運送事業 | 高齢者、障がい者などの移動制約者の移動手段として、NPO法人などによる実費の範囲内での移送サービスを支援します。また、福祉有償運送ドライバー認定講習会を開催し、ドライバー不足を解消するとともに、ボランティアドライバーの育成を目指します。 | 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 | 福祉有償運送ドライバー認定講習会修了者43人 | ・移動支援に係る一般施策や福祉制度と、福祉有償運送事業との関連を整理できておらず、福祉有償運送における対象者が明確になっていない。 ・運営事業者の運営体制(人員、事業費等)が持続可能なものになっていない。 | 既存の公共交通体系において、移動制約者の移動について協議を行う。 |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | 福祉有償運送のドライバー増加及び利用件数増加 | | |
| 【再掲】成年後見センター事業 | 尾張東部権利擁護支援センターへの委託により、判断力が不十分な認知症の高齢者、知的障がいや精神障がいのある人の財産や権利を守るための支援を実施します。 | 長寿課 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |

| | | | | | | |
|----------------------------|--|---------------|---------------------|---|--|------------------------------|
| <p>病児・病後児保育事業</p> | <p>児童の病気時や回復期で集団保育が困難であり、保護者も就労などで保育できない時に利用できる保育サービスとして、病児・病後児保育を実施します。</p> | <p>子ども未来課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>利用者実績 R2のべ184名、R3のべ586名が利用。(R2はコロナ禍のため利用者がすくなくかった)</p> | <p>病院の受け入れ可能時間と、保護者が預けたい時間が一致せず、園児を預けることができないケースがある。</p> | <p>病院と、受け入れ可能時間について相談する。</p> |
| <p>【再掲】地域包括支援センターの活動推進</p> | <p>地域の高齢者の総合相談、権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防の必要な援助等を行い、高齢者の健やかな暮らしを包括的に支援します。</p> | <p>長寿課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど</p> | <p></p> | <p></p> |

基本目標3 みんなに「届く」安心なまち

基本施策(7) ずっと住み慣れた地域で元気に暮らせる環境づくり

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|----------------------|--|--------------------------------|--|--|--|--|
| ながくて福祉ガイドの作成 | 障がい、高齢者、子育てに関する各種相談や手当・助成制度、支援に関する情報についてわかりやすくまとめた冊子を作成します。 | 福祉課 長寿課 子ども未来課 子ども家庭課 | 数値や実施の有無等の実績 年1回、福祉ガイド(高齢者編・障がい編・子育て編)を更新している。 | | 福祉ガイド(特に紙媒体)がどの程度活用されているのか把握できていないため、掲載している情報の精査が難しい。 | デジタルでの福祉ガイドの活用促進を検討する。 |
| グループホーム等地域で暮らせる体制の整備 | グループホームを設置する事業所に対し、開設の支援を行うことにより、新たなグループホーム及び短期入所の設置を目指します。 | 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 市内の共同生活援助事業所数(各年度末時点) R1:3 R2:4 R3:5 R4:5 | | 日中サービス支援型のグループホームや、医療的ケアが必要な人を含む重症心身障がい者が利用できるグループホーム及び短期入所事業所が市内にない。 | 活用可能な補助金制度について、市内事業所に案内を行う等、働きかけをお願いします。 |
| [再掲]地域いきいきライフ推進事業 | 市民や事業者など、地域の様々な主体の意欲や創意工夫を活かした健康づくりや支え合いに資するコミュニティの創出を支援します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| 高齢者等乗合タクシー事業 | 最寄りのバス停や駅への移動が困難な高齢者等のため、他の人と乗り合いで利用するタクシーを運行し、ドア・トゥ・ドアの市内移動の支援を図ります。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 平成30年度、令和元年度にN-タク実証実験を行った。 | | 実証実験時の利用者は既存の移動手段の代替手段として利用しており、外出しない人の外出促進に繋がらなかったことが判明し、所期の目的を達成できなかったため、N-タクの本格導入をしないこととした。 | 市民ニーズと近隣自治体の取組に注視し、別の形で移動支援策を検討していく。 |
| あつたかぁど事業 | 高齢者の社会参加、外出を促進し、健康寿命をのばしてもらうため、長久手温泉ござらっせの優待、N-バスの無料利用及び協賛店での特典利用ができる取組を実施します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 R3あつたかぁど発行数 2,013枚 R3ござらっせ入泉助成件数 54,651件 | | 令和4年度からN-バスの無料利用は廃止となった。 | 優待内容及びあつたかぁど自体の在り方を検討していく。 |

| | | | | | | |
|-------------------|---|---|--------------|---------------------------------|---|---------------------------------|
| 【再掲】認知症高齢者等家族支援事業 | 認知症の高齢者などを介護する家族に「発信機」を貸し出し、行方不明時の迅速な位置検索、保護を目指します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| 緊急通報システム事業 | 一人暮らしの高齢者等の日常生活における不安を軽減し、安心して生活できるようにするために、緊急通報システムを貸出し、緊急時だけでなく、センターが定期的な安否確認を行います。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | R3年度未利用者数 145人 R3緊急通報数 13件 | 令和4年度からプロポーザルにより事業者を変更し、同程度のコストで通報とセンサーによる見守りができるように機能を向上できたため、現状では特に課題は無い。 | 基本的には現状の形態で事業を継続していく。 |
| 食の自立支援事業 | 調理等日常生活に支障のある一人暮らしの高齢者等の健康の保持、食生活の改善、日常生活の助長を図るとともに、安否確認を行うため、給食の毛配を行います。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | R3年度未利用者数 194人 R3配食数 46,121件 | 申請者の身体・生活状況による事業利用の可否の判断が難しいケースが散見される。 | 事業利用可否の決定基準を明確化し、事業の適性利用を図っていく。 |
| 【再掲】健康づくり教室の開催 | 生活習慣の改善や介護予防を目的とした健康づくり教室（栄養指導、運動指導等）を開催し、参加者の仲間づくり、健康づくりを推進します。 | 長寿課 保険医療課 健康推進課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| 子育て情報発信事業 | 妊娠・出産・子育て等の情報を円滑に得ることができるようにするため、関連情報を整理し、一元的に提供する仕組みづくりを行います。 | 子ども未来課 子ども家庭課 健康推進課 | 数値や実施の有無等の実績 | さずなネットアプリを活用して、情報発信を行っている。 | | 事業の継続 |
| 【再掲】療育支援体制構築事業 | 保健・保育・福祉・教育等の機関が適切に連携することで、障がいのある児童に対して、出生から就労までの切れ目のない療育支援体制を構築します。 | 子ども未来課 子ども家庭課 福祉課 健康推進課 教育総務課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |

| | | | | | | |
|-----------|---|-------|--|---|---------------------------|--|
| 健康マイレージ事業 | 生活習慣の改善につながる運動、各種健診の受診、健康講座、イベント、スポーツ教室等の「健康づくりメニュー」に取り組んだ人にマイレージ(ポイント)を付与し、マイレージを様々な特典に交換することにより、健康づくりにチャレンジする人を支援します。 | 健康推進課 | <p>数値や実施の有無等の実績</p> <p>実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど</p> | <p>50ポイント達成者 令和元年度257人、2年度205人 3年度262人、4年度328人(12月末)</p> <p>令和2年度からアプリの利用を開始した。アプリの利用者が増えた。</p> | 新規の参加者を増やし、健康づくり活動を習慣化する。 | 達成者の増加を目指すため、若い世代の興味がある特典を増やすよう新たな協賛企業を増やすことや市内の大学と連携を試みる。 |
|-----------|---|-------|--|---|---------------------------|--|

基本目標4 みんなで「支え合う」喜びを知るまち
基本施策(8) 気軽に「困った」と言えるまちづくり

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|----------------------|--|---------|---------------------------|--|----------------------|---------------------------------------|
| 【再掲】支え合いマップづくり | 地域の見守り体制の充実を図るため、地域にどのような困っている人がいて、どのような人と人とのつながりがあり、支え合いが行われているかを再確認し、地域の課題の解決に向けた話し合いの場づくりを支援します。 | 地域共生推進課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| 認知症カフェ | 認知症の当事者、家族、地域の人及び専門職がカフェのような外に開かれた、なごやかな場で自由に集い、交流を楽しみながら、認知症を地域で支えていくためのつながりや取組を創出します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | 市内4箇所毎月1回認知症カフェを実施。(R5.2月末時点) | 認知症の当事者や家族の参加がまだ少ない。 | 参加しやすい場所、テーマで実施する。 |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | 認知症カフェの目的について理解を示し、協力して下さる市民や大学生、福祉事業所等が、ボランティアスタッフとして、企画・運営・チラシ作成等に協力いただき、それぞれの得意分野で活躍している。 | | |
| 【再掲】保育園・児童館等での地域交流事業 | 若者から高齢者まで幅広い世代の市民が保育園や児童館、児童クラブ等の環境整備や行事の補助などに知識や能力を活かしてボランティアとして関わり、子どもたちと交流することにより、地域に根ざした保育園、児童館等を目指します。 | 子ども未来課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| 【再掲】生活支援体制整備事業 | 地域の支え合いを推進する生活支援コーディネーターを配置し、地域資源の把握やサービス提供主体をはじめとする関係者間のネットワーク構築などに取り組むとともに、地域の高齢者などのちょっとした困りごとへのお手伝いをする生活支援サポーターを養成します。また、サロン等の集いの場の情報をまとめた「行こ居こガイドマップ」を作成します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |

基本目標4 みんなで「支え合う」喜びを知るまち

基本施策(9) お互いさまの地域づくり

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|-----------------------|--|--------|---|--|--|--|
| 市内一斉防災訓練 | 市内全ての小学校を会場として、一斉に避難訓練や避難所運営訓練などを行い、個人、地域、行政、それぞれの役割を確認し、課題を発見することで、本市全体の防災力を高めます。 | 安心安全課 | 数値や実施の有無等の実績 令和元年度は市内一斉防災訓練、令和2年度以降は市内一斉避難所開設訓練をそれぞれ11月に実施しました。 | | 令和2年度以降は、コロナ禍に対応した避難所開設訓練を実施してきた。参加者からは、必要な訓練との声がある一方、異なる訓練を求める声もある。 | より一層、市民が主体的に訓練を企画し、実施することができる内容にする。 |
| 避難所運営ゲーム(HUG)推進 | 避難所で起こる様々な出来事どう対応していくかを模擬体験する避難所運営ゲーム(HUG)を通して、地域における防災意識向上を図ります。 | 安心安全課 | 数値や実施の有無等の実績 防災講習会などで実施しました。 | | HUGは、複数人でテーブルを囲んで実施するゲームであるため、コロナ禍においては実施が困難な状況だった。 | コロナ禍から平常に戻りつつあるため、今後はHUGの実施やHUG以外の防災ゲームの実施も進めていきたい。 |
| 【再掲】ファミリー・サポート・センター事業 | 地域の中で、仕事と育児の両立等、安心して子育てできるように、育児の援助をしたい人(援助会員)と援助を受けたい人(依頼会員)による相互援助活動を行います。 | 子ども家庭課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| 避難行動要支援者登録事業 | 一人暮らし高齢者、障がい者など、災害などの緊急時に支援を要する人を要支援者として登録し、あらかじめ支援団体などに情報提供することで、要支援者が安心して暮らせる環境をつくります。 | 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 避難行動要支援者登録者数 R1 354名 R2 349名 R3 367名 ※高齢者実態把握調査の対象者を除く。 | | 対象者、避難支援等関係者だけではなく、より多くの人に本制度を知ってもらう必要がある。 | 対象となる方、避難支援等関係者等のの制度に関する理解を深め、日頃からの見守りを行い、いざというときに地域で支え合える体制づくりを目指す。 |
| ワンコインサービス事業 | 高齢者の軽度な困りごとを地域の有償ボランティアの人が支援する取組を通して、誰もが地域の中で支え合って安心して暮らせるまちへのきっかけをつくります。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 有償ボランティアによる支援回数 R1:1629件、R2:2,481件、R3:2,301件 | | 地域の困りごとを地域解決する支え合い活動であるが、業者のような感覚で利用する方が一定数いる。再度事業の理念を共有する必要がある。 | 自治会、民生委員など地域の関係者と密に連携をとり、必要な方に情報を届け、地域での支え合い活動を広げて行く。 |

| | | | | | | |
|------------------|--|-----|---------------------------|--|--|--|
| 【再掲】認知症サポーター養成講座 | 地域において認知症に関する正しい理解を深め、地域全体で認知症を支えていくための講座を実施します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |

基本目標5 みんなに「たつせがある」成長できるまち

基本施策(10) 一人ひとりが考え、学び、成長する機会づくり

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|--------------------|---|-------------|---------------------------|--|---|---|
| 【再掲】地域共生ステーション整備事業 | 各小学校区に自治会のほか、地域に根ざした子供会やシニアクラブ、企業、NPO、各種活動団体等が、地域のために様々な取組を行う拠点となる施設を整備します。 | たつせがある課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| 学生の社会貢献活動を支援する取組 | 地域活動等に積極的な学生を応援するため、様々なことにチャレンジすることができる仕組みづくりに取り組みます。 | たつせがある課 | 数値や実施の有無等の実績 | ・長久手市大学連携推進ビジョン4Uに基づく事業の実施 ・学生のやりたいことを実現する場としてリニモテラス公益施設が開館(R3年度) | 市内・近隣大学の学生同士の連携事業を推進させていくことが課題。 | 引き続きリニモテラス公益施設を活用し大学連携事業を実施していく。 |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | リニモテラス公益施設のコーディネーターが学生の活動を支援することでリニモテラス公益施設が学生の活動拠点となりつつある。 | | |
| 【再掲】生涯学習推進事業 | 公民館の利用促進を図り、生涯学習に関わる団体や個人が、自主的に活動し、交流機会の充実を図ることができるよう支援します。また、学んだことを地域活動や市民活動に生かすことができるよう支援します。 | 生涯学習課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| 【再掲】市民企画支援事業 | 市民が主体となって行う学習の場を提供し、学んだことを教え合うことにより、出会いの機会が生まれ、人と人がつながるきっかけづくりを行います。また、市民が、学んだことを活かして、地域で活躍できるように支援します。 | 生涯学習課(文化の家) | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |
| 地域福祉推進のための講演会 | 地域福祉及び地域福祉計画への理解を深めていただくため、地域福祉推進のための講演会を開催します。 | 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 | 令和元年 1回 テーマ:災害 参加者87人 令和2年 コロナ禍により開催せず 令和3年 1回 テーマ:生活 参加者40人 | 参加する年代が限定的で、市民にとって、地域福祉は身近な問題として捉えやすくなるようなテーマの設定が課題である。 | 幅広い年代の市民が、様々な視点から福祉を考えることができるよう、講師・内容を検討していく。 |
| | | | 実施過程で生まれた地域の変化や効果、エピソードなど | | | |

| | | | | | | |
|----------------------|--|----------------|---------------------|--|--|--|
| <p>移動支援の支援員の人材育成</p> | <p>障がいのある人の移動を支援するために、移動支援の支援員についての養成研修の実施や、本市独自の認定制度を設けるなど、障がいのある人の移動を支援する人材の育成を図ります。</p> | <p>福祉課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>移動支援事業従事者養成研修終了者数【累計】20人</p> | <p>市内全体として、移動支援事業の利用者がやや限定的になってしまっているため、事業者側が、新たな従事者の養成や確保にやや消極的である。</p> | <p>日頃の相談支援において、移動支援事業の利用促進を行う同時に、市内事業所に対し、登録事業所が実施する研修への参加を、働きかける。</p> |
| <p>【再掲】地域力強化推進事業</p> | <p>地域の調整役となるCSW(コミュニティソーシャルワーカー)が中心となり、市民同士が日頃から見守り、支え合える関係性を築く取組を行います。</p> | <p>地域共生推進課</p> | <p>数値や実施の有無等の実績</p> | <p>市内登録事業者が実施する養成研修に大学生も受講し、事業所内で支援員として活躍している。</p> | <p></p> | <p></p> |

基本目標5 みんなに「たつせがある」成長できるまち
基本施策(11) みんなに役割と居場所がある地域づくり

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|-----------------------------|---|----------------|----------------------|---|---|--|
| [再掲]ながくて地域スマイルポイントの利用促進 | 市民活動に参加した市民にポイントを付与し、貯まったポイントを様々な特典に交換できるようにして、地域社会への更なる参加を促します。 | 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| 農福連携 | 障がいのある人の特性をみながら、障がいのある人の雇用機会を拡げるため、また、人手不足により耕作放棄地となっている農地の有効活用のため、他自治体で成功事例の多い農福連携についての取組を推進し、農業を活用した雇用機会の拡大を図ります。 | 福祉課 みどりの推進課 | 数値や実施の有無等の実績 | 農作業に携わった障がいのある人の人数58人 | 障がい事業所からの農福連携のニーズはあるものの、農業者側での受入れ体制整備が難しい。 また、障がいのある人が作業をしやすい環境のある農地の確保も課題である。 | 農福連携に取り組む事業者のニーズ、取組状況、そして全国や愛知県の事例を把握し、必要に応じて、事業所へ情報提供、助言等を行う。 |
| [再掲]ワンコインサービス事業 | 高齢者の軽度な困りごとを地域の有償ボランティアの人が支援する取組を通して、誰もが地域の中で支え合って安心して暮らせるまちへのきっかけをつくります。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| シルバー人材センター事業 | 高齢者の長年の経験や知識、能力を活かして地域へ貢献し、健康で生きがいを感じ、働きたいと考えている方々に就労の機会を提供します。また、多様化する就労ニーズに応え、より多くの高齢者に居場所と役割を持ってもらうため、シルバー人材センターの機能強化、事業拡大を図ります。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | R3未会員数 500人 | 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う公共施設の一時休館や、指定管理者制度導入により、受注機会の減少が懸念される。 | 就業分野の拡大と女性会員の増加を図る。 |
| 年齢にこだわらず、高齢者が仕事を続けられる仕組みづくり | 生涯現役のまちを目指し、高齢者の能力に応じて多様、多彩な就労の機会を、民間事業者と連携し、確保します。 | 長寿課 たつせがある課 | 数値や実施の有無等の実績 | シルバー人材センターR3未会員数 500人 | 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う公共施設の一時休館や、指定管理者制度導入により、シルバー人材センターの受注機会の減少が懸念される。 | シルバー人材センターの就業分野の拡大と女性会員の増加を図る。 |
| ゲートキーパー養成講座 | 心の悩みを持つ人の早期発見、早期対応を図るため、市民や専門職等が心の問題についての知識を得て、地域での見守り等の役割を担えるようゲートキーパーを要請します。 | 健康推進課 | 数値や実施の有無等の実績 | 参加者 令和元年度54人、2年度30人 3年度29人、4年度26人 | 感染症により講座の参加人数も制限され、参加者も少なかったため、引き続きゲートキーパーを養成する。 | ゲートキーパーの役割等について、事業等で周知していく。養成講座を受講した方に向けて、フォローアップ研修を実施する。 |

基本目標5 みんなに「たつせがある」成長できるまち

基本施策(12) 人づくりからはじまるまちづくり

| 事業名 | 取組 | 担当課 | 第2次計画における実績(令和元年度以降) | | 課題 | 第3次計画推進にあたっての実施方針、目標、工夫したい点等(令和6年度以降) |
|----------------------|---|---------|----------------------|--|--|---|
| 【再掲】学生の社会貢献活動を支援する取組 | 地域活動等に積極的な学生を応援するため、様々なことにチャレンジすることができる仕組みづくりに取り組めます。 | たつせがある課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| 生涯学習講師人材バンクリスト | 各種の技能・資格をもつ人材や自分の知識・特技を地域の生涯学習活動に活かしたいという人材をサークル活動や講演会などで活用できるよう、取り組みます。 | 生涯学習課 | 数値や実施の有無等の実績 | 新規登録申請随時受付 R1年度 7件 R2年度 6件 R3年度 8件 R4年度 3件 | 新規登録数、照会数ともに、近年は1年間に10件以内で推移しており、リストの存在自体を市民に知っていただくような周知の工夫が必要であると考ええる。 | 登録及び照会数を増やすため、複数の広報媒体を用いて、積極的な周知を行っていく。 |
| 【再掲】在宅医療・介護連携推進事業 | 医療・介護・福祉の専門職等が顔の見える関係を作りながら、お互いに学びや気づきを深め、ICTを活用しながら職種間の連携を推進します。 | 長寿課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| 【再掲】福祉有償運送事業 | 高齢者、障がい者などの移動制約者の移動手段として、NPO法人などによる実費の範囲内での移送サービスを支援します。また、福祉有償運送ドライバー認定講習会を開催し、ボランティアドライバーの育成を目指します。 | 福祉課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |
| 【再掲】地域学校協働活動事業 | 学校、保護者、地域がともに連携し、登下校時の見守りや、授業中における障がいのある子などの支援を行い、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていきます。 | 教育総務課 | 数値や実施の有無等の実績 | | | |